

平成 25 年度第 7 回（124 回）

清瀬市まちづくり委員会議事要旨

日 時：平成 26 年 1 月 28 日（火）午後 2 時から

場 所：中清戸地域市民センター第 1 会議室

出席者：野島和季子、河原守、菊池義昭、小川弥栄子、菊谷隆、吉岡袈裟喜、  
山本強、鬼澤義信、柴田正子、鈴木紀子、齊藤しのぶ、石津和幸、法  
性由紀枝、竹森菜摘

事務局（企画課長、市民協働係長、企画課主事）

欠席者：原田輝雄、長谷部勝也、星野芙美子、真田美那子、林光夫、車崎祥子

<配布資料>

- 1 平成 25 年度第 7 回（第 124 回）清瀬市まちづくり委員会次第
- 2 平成 25 年度第 6 回（第 123 回）清瀬市まちづくり委員会議事要旨
- 3 提案「市に観光課を設置&仮称・観光ガイドボランティアの会の設立」資料
- 5 提案「猛暑避難場所の運営の見直しを！！」資料
- 6 提案「清瀬情報誌の発行配布を！」

**1 開会**

**2 前回の確認**

委員長：前回の議事要旨について、この内容で良いか。

<委員了承>

**3 提案審議**

委員長：提案「猛暑避難場所の運営の見直しを！！」について、回答を作ってきたので確認してもらいたい。

<回答案を読み上げる。>

委員長：この提案に対する回答で別添資料として各公共施設の開館時間の一覧

を送付してみても良いと思う。

<委員了承>

委員長：観光課の提言について小委員会を設置して提言案を練るとの話であったが、どなたかやっていたいただける方はいないか。

<立候補により小委員会のメンバーが決まった。>

委員：前に商工会に属する委員も入れた方がよいとの話があったと思う、本日その委員が欠席であるがどうするか。

委員長：その委員については事務局と相談してみる。提言に繋げるべく、商業ベースの観光に力を入れて、提言に力をいれたい。

委員：福生などが市内の酒屋を中心に近隣市と観光連携を行った例をテレビで見た。多摩六都でガイドブックの作製も良いと思う。

委員：アピールする事があれば隣接する市と行っていけると思う。

委員：近隣市のイベント紹介も取り入れていく時期なのではないか。

委員：清瀬では企業を誘致するのは厳しい。東村山等と連携していけばよい。

委員：観光を進める目的は何か。観光を進めることは必要なのか。疑問でもある。

委員：緑を大事にすること必要だが、上手いアピールの仕方があると思う。財政的にも厳しいがPRして行って欲しい。

委員：清瀬は静かで過ごしやすいが、内部で連携が取れていないので街中が活発で無く、他市の人を招けない。みんなが手伝ってくれる街が目標である。

委員：近隣の方は清瀬を美しいと思っている。金山緑地公園は都内有数の公園であるので、誇るべき自然を活用していきたい。カタクリ祭りが3月末に行われる。お金は落とさないかもしれないが、5、6万人の人が来るのもてなし、清瀬にしかない草花を知ってもらうことが大事。水と緑の環境課だけではなく、産業振興課も交えたい。

委員：数年でお金を回収出来なければ経済的メリット等の意味がない。今ある観光をしっかり把握しなければならない。そうでないと、結局ボランティア頼みになってしまう。

委員：駅近くにインフォメーションセンターやガイドマップが欲しい。清瀬で暮らしやすい街などを念頭に小委員会で話し合っていく予定である。

委員：清瀬に長年住んでいるが、この会議で様々な観光があることを知った。今はPRしたくてもバラバラなので一つにしていく必要がある。道の駅などよいと思う。

委員：市民の中の人材を活かし、ボランティアを養成するのも良いと思う。商店街の空き店舗を観光案内所に設置するのはどうか。考え方によって市をPR出来るのではないか。

委員：産業振興課にプラスαとして係を設置すれば良い。

委員長：一市民として観光課は欲しい。委員の意見をまとめると「守って欲しい自然の観光」と「経済的メリット」の二極がある。都内にある自然としてふるさとのような街であり、それを目玉にしても良いと感じた。観光化は市を知らない人を案内するために必要であると思う。提言として観光案内所を作るか等を小委員会で詰めていきたい。必要であれば市民と行政を含めた全体での会議も行いたい。また、色々な事を伝えるために窓口は欲しい。「見て楽しむ観光」と「稼ぐ観光」を踏まえた上で検討していきたい。市の業務や予算を付けてもらうこと等を働きかけていきたい。

委員：カタクリ祭りの時、迷い人がいたので、やはり窓口は作るべきである。

委員長：立派な刊行物を作っても、人によっては必要であったり不要でもある。観光物をまとめないと効果が無い。小委員会でPRする方法も検討していく。

委員：小委員会としてまとめの期限はいつか。

委員長：4月の委員会でお願います。

委員：前回早目に回答したいとの話があったが、いつ回答すると考えているか。

委員長：回答内容をまとめて、早目に回答したいと考えている。

委員：1年間経ち、まだ回答していないので現在の中間報告をしても良いと思う。

委員：内容が市にとって重大であるので、小委員会を踏まえた回答としたい。

委員長：観光課設置にあたって、市で関連のある条例等を調べて欲しい。小委員会についてはどのように開催すればよいのか。

事務局：ルールがないので、委員会の中でやりやすく行えば良い。

委員長：会議の前に小委員会を開催し、時間をずらして会議を開催する。開催時間等の詳細は事務局より通知をもって伝える。シティーセールスについてはどのような検討を行っているのか。

事務局：シティーセールスについては必要性の有無を検討した。予算の関係で新たな課の設置は難しい。一つの会議体を作って、シティーセールスを行なっていくよう市長へ提案した。今後市長が最終的に決定する。観光資源は乏しいが、市の住み易さや子育てのしやすさなど清瀬市のよさを発信していきたい。

委員長：長期総合計画にまちづくり委員会の意見を反映出来ないのか。

事務局：今年の10月以降、一般の市民を交えた策定審議会を設置し、今後の方向性を検討したいと考えている。今は行政の内部で素案を作っている。今後、市民と広く議論していく予定である。

委員長：市の財政は厳しいが、このまちづくり委員会の意見を反映し、長期総合計画に組み込めれば良いと考えている。

委員：市長への提言ならば近々に必要であると考え、長期総合計画とは別でも良いのではないだろうか。

事務局：観光課の設立について市長へ提言はできるが、条例に関係することなので議会の議決も得ることが必要である。

委員：清瀬市では「緑の10カ年計画」の策定に参加していたが、次回の会議に緑被率のデータを次回準備してもらいたい。

委員長：観光化として必要な資料を事務局よりお願いしたい。

事務局：現在事務局にきている提案を配布する。

委員長：今回は今配られた提案についても進めていきたい

次回2月25日、生涯学習センター講座室にて14時30分より行う。